

ふるさとポケットガイドブック

シリーズ③

東北海道の古都、あつけし



ご案内します。どこより素敵なわたしたちのふるさと。

スケールの大きな自然で知られる根釧台地は、その地理的条件、歴史的役割のうえに独特の文化、情緒をはぐくんできました。歴史、伝統、そして人情も、実に味わい深い土地柄です。この魅力を少しずつでもかたちにしたいと、本シリーズの企画・制作をスタートさせました。名所を巡りながら、力強く生きる人々の営み、思いに触れていただくガイドブックです。地元の方には、もう一度ふるさとに出会い、また好きになるきっかけに、旅の方には、発見と感動への水先案内人となることを願って。

大地みらい信用金庫
創立100周年記念事業実行委員会

大地みらい基金
設立30周年記念事業実行委員会

～ふるさとの記憶をみらいへつなぐ～

INDEX

想像力と五感を研ぎ澄ませて、
出かけよう、
東蝦夷地のタイムトリップ。…… 03

あつけし、時の記憶 - 1 …… 05

国泰寺 ……	07
正行寺 ……	13
吉祥寺 ……	17
厚岸神社 ……	19
鹿島稻荷神社 ……	20
牡蠣島弁天神社 ……	20

あつけし、時の記憶 - 2 …… 21

教雲寺 ……	23
法華寺 ……	23
大厚寺 ……	23
金毘羅院 ……	24
正應寺 ……	24
床潭神社 ……	24
厚岸真龍神社 ……	25
高野寺 ……	25
東岸寺 ……	25
寶龍寺 ……	26
豊受神社 ……	26
報国寺 ……	26
正念寺 ……	27
暁善寺 ……	27
光暁寺 ……	27

厚岸マップ …… 29

想像力と五感を研ぎ澄ませて、 出かけよう、東蝦夷地のタイムトリップ。

江戸末期まで地図に記されることもなかった蝦夷地・北海道。

“日本”の枠組みに取り込まれてもなお刻まれた独自の歴史、

「あっけし」はその重要な舞台の一つでした。

明治期の繁栄を経て、つくられたのは、海と大地、まちの2つの表情。

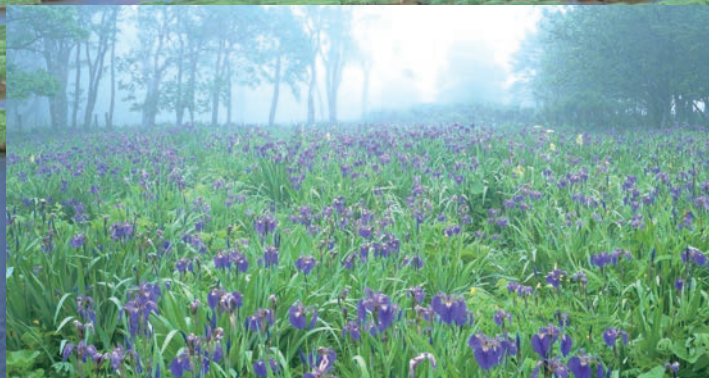
「あっけし」に数多く開かれた神社仏閣は

その営みを静かに見つめてきました。

「アッケシ」の名前が初めて文献に登場したのは寛永年間(1624～1643年)、松前藩の文献に「アッケシ場所」開設が記録されています。「アッケシ」はアイヌ語のアツニケウシ(楡の皮をはく所)・アッケシトー(楡の皮を漬ける沼)、またはアッケケシ(カキのある所)の2説あります。開拓時代前の表記は「アツケシ」「邊結牛」「阿津気志」「悪消」「厚消」など文献により様々でした。



ピリカウタから望む小島・大黒島



原生花園あやめヶ原：約30万株のヒオウギアヤメなど100種類以上の植物が見られます。



厚岸大橋：1969年(昭和44)から3年の月日をかけて架けられた、長さ456.5m、北海道で最初の海上橋です。

豊穰の海

町内に残る遺跡から、この地には約6000年にわたり人が暮らしてきたと考えられます。それを支えたのは自然の恵み、特に海の資源の豊かさでした。天塩のしじみ、十勝のフナと並び「蝦夷の三絶」とうたわれたカキは、1643年(寛永20)に寄港したオランダのカストリクム号の航海記録からも当時すでに厚岸の重要産物であったことがうかがえます。また、1791年(寛政3)の『東蝦夷道中記』には、カキに加えて昆布、ニシン、クジラ、



床漕の昆布干し

ラッコやアザラシの毛皮などが厚岸の産品として記されました。

世界につながる港



厚岸湾全景

天然の良港という地理的特長から、鎖国の時代にもオランダ船、ロシア船、オーストラリア船と度々異国船が訪れた厚岸は、江戸後期を通して外交の最前線であり、松前・函館と根

室・千島を結ぶ航路の中継地として大いに賑わう港町でした。厚岸の産物は松前・江差・函館の港から主に北前船で大消費地大阪へ、昆布や塩カキなどは、さらに長崎を経由して中国にまで運ばれました。蝦夷地から大陸に至るこの海産物の流通は、近年「コンブロード」と呼ばれています。

また、1999年(平成11)に始まった国内初シングルシード方式のカキ養殖は、その150年前の1850年に厚岸沖で難破したオーストラリア船の救助に漁民があつたことを縁としたクラレンス市との姉妹都市提携からもたらされたものです。

明治のベンチャー

明治期に入るとニシンの豊漁に浜は沸き、海産物の自由販売が認められるようになったことで商店は出店ラッシュ、湾月町、若竹町を中心に商店街が形成されます。商都・厚岸の誕生です。起業も相次ぎ、明治らしいフロンティアスピリットあふれる気鋭が数々活躍しました。オイスターソースやバラエティ豊かなカキの加工品を生み厚岸の水産加工業の基礎が築かれたのも、日本で初めてのヨード製造が成功し産業として発展したのも



厚岸大橋と町並み

明治の前期。発展に合わせるように町内には次々と寺社が開かれました。

地域ブランド続々登場



戦乱の時代を経て、戦後の機械化・工業化の進展で漁船も大型化、

漁場は沿岸から沖合へ、さらに遠洋へと拡大し浜の様子も変化しました。その流れの中でも、陸とのつながりを視野に入れた沿岸での育てる漁業に取り組み、高品質の特産品開発が進められてきました。いま、「カキえもん」を筆頭にした「えもんシリーズ」、「大黒さんま」など厚岸ブランドの食は力強く町の魅力を全国に向けて発信しています。





蝦夷地に掲げられた葵の御紋



臨済宗五山派 景運山 国泰寺

厚岸町湾月1丁目 TEL:0153(52)3064

蝦夷三官寺の一つ

臨済宗の禅寺、国泰寺の山門には「徳川葵」が掲げられています。江戸幕府が「新寺建立禁止令」を自ら破って建立した寺だからです。

18世紀に入り蝦夷地周辺には度々異国船が出没、とくに異教(キリスト教)の影と共に南下してくるロシアは幕府にとって脅威となっていました。こうした背景から幕府は1799年(寛政11)蝦夷を直轄地とし北方警備を強化、1804年(文化元)には死者供養、キリスト教排除、異国船退散祈禱を目的に幕府直営の3つの寺を建てることを決めました。これが蝦夷三官寺、厚岸「国泰寺」、様似「等澍(じゅ)院」、有珠「善光寺」です。

また、先住民族であるアイヌ民族と和人の軋轢に幕府が危機感を募らせていたことから、アイヌ民族の教化(同化)も蝦夷三官寺の役割の一つであったといわれます。*

※国泰寺開山前の1789年(寛政元)、和人の酷使に耐えてきた国後島と、対岸のメナシ(現:根室管内)のアイヌ民族が、支配者松前藩に対して次々と蜂起しました。アイヌ最後の戦いと呼ばれる「クナシリ・メナシアイヌの戦い」です。結果的にこれは幕府の直轄政策へとつながっていきました。

国指定 史跡 国泰寺跡

蝦夷地における特異な歴史的役割を果たした重要な寺として、1973年(昭和48)に裏手のアイカップ地域を含む13万1533㎡が国の史跡に指定されました。

※山門すぐ近くの「郷土館」に展示されたジオラマで、建立当時の国泰寺と隣接する神社、番所、会所などの配置がよくわかります。



国泰寺に残る、寺社奉行から下された掟書(おきてがき)

- 一、天下泰平国家安全之勤行、怠慢あるべからざる事
- 一、蝦夷をして本邦之姿に帰化せしむる事
- 一、毎々より死亡之民をして未来得脱せしむる事
- 一、隣邦之外夷渡来したるとも国のあざけりなからしむる事



❁ 色古丹松(町指定・天然記念物)

国泰寺創建前、幕府の命で蝦夷地と北方諸島を探索した近藤重蔵が色丹島より持ち帰ってこの地に植えたといわれるカラマツ。



❁ 本 堂

入口の箱に拝観料100円を入れて外陣(参拝のスペース)へ。ぐるりと取り囲む15幅の地獄極楽図。うち12幅が不思議と見入ってしまう地獄絵です。本堂入口にはお守り、おみくじもあります。



❁ 老桜樹(町指定・天然記念物)

1830年(天保元)、奥州石巻(現:石巻市)から移植したと伝えられます。歴代住職が記録した「日鑑記」に花見の記述が見られます。

❁ 国泰寺什器書画古文書
(町指定・有形文化財)

本尊・南無釈迦牟尼仏像、開山文翁像から經典、掛軸など受け継がれている貴重な資料は町の文化財に指定されています。



「開山文翁政和尚禅師」像

❁ 鉢植の李(すもも)

初代住職・文翁が赴任する道中、あいさつのために立ち寄った仙台藩主邸で贈られた鉢植えを、後に地植。





＊ 龍王殿

細い坂道を上ると仏法を守護する龍王をまつる「龍王殿」。その隣には港町らしい「魚魂碑」が立っています。このあたりから、木々の間に港が眼下に望めます。



＊ アイヌ民族弔魂碑

山門を入る手前にあります。1977年(昭和52)に建てられました。東蝦夷地の開拓に欠かせない存在であったアイヌ民族への非道をわびる文章が彫られています。

＊ 仏牙舍利塔(町指定・有形文化財)

1842年(天保13)建立。「仏舍利」はお釈迦さまの遺骨、「仏牙」はあごの骨。塔内には初代住職・文翁と6世住職・香国が譲り受けた4粒が納められています。



＊ 馬頭観音堂

馬頭観音は観世音菩薩の化身で諸悪魔を下し、煩惱を断つ功德があるとされますが、江戸時代には馬の無病息災を願う際の守り神として信仰されました。

＊ 三十三観音霊場

仏牙舍利塔に向かう参拝者を観音様が見守ります。



＊ 蝦夷三官寺国泰寺関係資料(国指定・重要文化財)

文書、「日鑑記」をはじめとした記録類、經典類、器物類、総点数832点が、国泰寺の開山から2世紀を経た2005年(平成17)、国の重要文化財に指定されました。

日鑑記

蝦夷三官寺の中でも国泰寺がひととき注目されるのは「日鑑記」の存在によります。初代から明治維新直前まで住職に書き継がれてきた執務記録です。幕府の蝦夷地政策、異国船来航、地震や津波、畑作などが幅広く記録され、資料的価値が高いとされます。

※現物を見ることはできませんが、国泰寺に隣接する「郷土館」にコピーが展示されています。

じっくり見ると、意外とハマります



郷土館 map.A - ②

国泰寺山門の手前、右側にある平屋の建物。国泰寺、正行寺関連の資料ははじめ、好奇心をくすぐる歴史的資料が多数展示されています。幕末、明治期の厚岸の勢いが展示物から感じられます。ここを見てから現地を訪れるか、訪れてから見るか…。

【開館時間】9:00～16:00

【休館日】月曜、祝祭日の翌日、冬期(11月16日～4月15日)

厚岸町湾月1丁目 TEL:0153(52)3794



道内随一の格調を誇る、
海を渡った本堂 (国指定重要文化財)

真宗大谷派 正行寺

厚岸町梅香1丁目19番 TEL:0153(52)2443

新潟から移築された入母屋造り

正行寺は建築、芸術面から高く評価される本堂、鐘楼、襖絵を有する見応えある寺院です。その歴史は1879年(明治12)新潟出身の朝日恵明が湾月町の借家に開いた説教所に始まります。2年後には現在地に本堂が建てられ、1883年(明治16)に正行寺の寺号公称を認められました。そして1911年(明治44)、新潟から本堂を移築するという大事業を成し遂げたのです。

正行寺本堂は今から200年以上前の1799年(寛政11)に新潟県の満長寺に建てられたものです。1909年(明治42)、正行寺は築110年のこの本堂を買い取り、翌年移築、1911年には盛大に落慶法要が営まれました。

1992年(平成4)には道東初の国の重要文化財に指定され、2006年(平成18)秋から3年にわたる保存修理工事により移築当時の豪華な姿がよみがえっています。

明治期の厚岸の勢いを伝える

新潟県(現・糸魚川市)にあった満長寺の本堂は1909年(明治42)に解体され、船で厚岸港へと運ばれました。到着した部材は港から境内まで檀家信徒120人がかりで運んだといわれます。工事には町民も多く加わり、多いときには毎日数百名が力を合わせ、

柱を立ててから5日で上棟式という驚くべきスピードで進んだそうです。

買い取り額は現在の2億円相当、返済に9年かかったとされますが、これだけの建造物を移築するエネルギーにあふれた、明治期の厚岸の繁栄が伝わってきます。

※1910年(明治43)上棟式の写真を「郷土館」で見ることができます。

風格そのまま、極寒の地に合わせて

移築の際、ケヤキ造りだった本堂にはタモなど現地の木材がプラスされ、縁側を室内に取り込むなど極寒地に合わせた部分改造が施されました。新たに設えたガラス戸のガラスはいまでも当時のままです。屋根は、移築当時は茅葺き、後に島根から職人を呼んで桜葺きに、そして大正時代に亜鉛鉄板葺きとなりました。アレンジは加えられたものの豪華さと優雅さを兼ね備え堂々とした姿は2世紀を経てなお健在。入口の虹梁、向拝柱(こうばいばしら)上部の木鼻、柱と垂木の間に取り付け

られた手挟(たばさみ)の見事な菊花の透かし彫りなども当時のままです。

移築の関係文書は、北海道開拓期の建築文化を知る貴重な資料となっています。



[鐘楼] (国登録有形文化財)

本堂新築が協議されていたさなか1908年(明治41)に造られた、正行寺に現存する最も古い建造物です。当時富山県より運ばれた梵鐘は戦中に供出され、現在の梵鐘は1957年(昭和32)に製作されました。



鮮やかによみがえった襖絵、 極彩色の本堂

圧巻の輝き「松鶴図襖」

本堂に入ると、道内に残る近世社寺の中でもひととき豪華な、装飾的にもすばらしい空間が往時の輝きで迎えてくれます。とくに内陣を挟んだ東西2つの余間の「松鶴図襖」は圧倒的な存在感。狩野派の分派の絵師により京都で描かれ、越後国(新潟県)に運ばれたと推測される襖絵は、本堂創建当初、1800年頃の作とされ、2006年(平成18)からの大規模な保存修理工事で、かつての輝きをよ

みがえらせました。日本画家・修復家の馬場良治氏の手による、当時の技法を使った見事な復元模写です。



金箔を使わず表す、黄金の輝き

襖絵の黄金色の輝きに、意外なことに金箔は使われていません。銀箔の上に梨子地漆(なしじうるし)を塗ることで金箔のような輝きを放つのです。「白檀塗(びやくだんぬり)」と呼ばれる技法で、白檀塗による紙の襖は類例を知られていない非常に貴重なものです。極楽浄土を表す内陣

の柱や長押にも白檀塗が施されています。

また、襖絵の解体の際には3000を超える古文書が下張りとして発見され、当時を知る研究に生かされているというエピソードもあります。



洗練された彫刻の数々

内陣の格天井に描かれた16弁の菊花、内外陣境の欄間の牡丹のすかし彫りや天女の彫刻など、要所に洗練された装飾が施され、極彩色のきらびやかさのなかに均整の取れた、

格調高い美しさをつくりだしています。

ご本尊に向かい、静かに手を合わせると、明治期の厚岸の人たちがこの本堂に込めた純粋で熱い思いが胸に迫ってくるようです。





重さ35.5トン、
日本で2番目に大きな涅槃仏

ねはん

曹洞宗 恵海山 吉祥寺

厚岸町梅香1丁目51 TEL:0153(52)2061

厚岸湾を望む山腹に安らぎの表情

その大きさは日本で2番目という石仏・涅槃像。吉祥寺の斎藤章彦住職が旅先で出会った中国の彫刻家が1年かけて彫った大作です。お釈迦様が入滅時のお姿、すべての迷い、煩惱から解放されたやわらかな表情で訪れる人を迎えています。

涅槃仏の台座の部分は大涅槃堂として、宗旨を問わず受け入れる永代供養の納骨堂となっています。四隅には無縁仏のためのスペースもあります。

涅槃仏を囲むように並ぶのは100体を超えるわらべ地藏。子どもたちの

顔がそれぞれ違うのは、すべてに実在のモデルがいるからです。作者が日本をはじめアジア各国を回り、インスピレーションを受けた子どもたちの表情が並んでいます。



自分自身と対話する 開かれた場所

吉祥寺の前身は、1876年(明治9)半俗半僧の恵海がこの地の無縁仏の供養を目的に開いた庵です。最初の本堂には寄進された地元の番屋の古材が使われました。1888年(明治21)、吉祥寺と公称。自分自身や故人と対話する場所をそつとつくるのが寺の役目と、1世紀以上変わらず誰もに開かれた寺であり、名もなき人の供養も続ける温かい場所です。



ちょっと裏話

35.5トンという大スケールの涅槃仏は胴の部分で2分割され、2つのコンテナで中国から苫小牧の港へ運ばれました。そこからは戦車も運べるというトレーラーで陸送。厚岸大橋は交通量の少ない時間に慎重に渡り、町内の道路が傷まないよう鉄板を敷いて運んだそうです。大涅槃堂の部分の基礎は深さおよそ9m、公営住宅を建てる場合と同量の鉄筋が使用されました。涅槃仏の到着は1997年(平成9)、すべての工事が終わり現在のかたちに安置されたのは3年後の春という一大事業でした。



東蝦夷地の中心に建立された鎮守



最上徳内

1791年(寛政3)創立

国泰寺の隣、二つの白い鳥居をくぐり森の中の石段を登ると、第3鳥居と社殿が現れます。1791年(寛政3)に創建された「神明宮」がその前身という歴史ある厚岸神社です。

東蝦夷地の中心として栄えた厚岸には、1779年(安永8)にロシアの商人一行が交易を求めて筑紫恋(ちくしこい)地区にやってきたのをはじめ、異国の影がちらついていました。危機感を募らせた幕府は1785年(天明5)、厚岸を拠点に北方領土を含む北方海域の実情調査をする検分隊を組織し

ます。この中の一人、最上徳内が1791年の探索の帰りに創立したのが「神明宮」です。天照皇大神(あまてらすすめおおかみ)と豊受姫神(とよけひめのかみ)をまつり、北方鎮護と、蝦夷地案内人として欠かせない存在であったアイヌ民族の教化が目的とされました。

創建者・最上徳内の直筆といわれる神明宮の額は長く行方不明でしたが、1933年(昭和8)、隣接する国泰寺の住職により土の中から発見され、国指定重要文化財「蝦夷三官寺国泰寺関連資料」の一つとなっています。

【碑文に記された厚岸の重要性】

1798年(寛政10)、最上徳内と共に北方調査にあたった近藤重蔵が「神明宮」社殿を改修、海上安全を願い市杵島姫命(いちしまひめのみこと)を合祀しました。近藤と最上が択捉島に「大日本志登呂府」の標柱を建てた年です。この際、近藤重蔵は碑文を残しています。境内の石碑に刻まれた原文は漢文ですが、現代語訳が添えられていて、「わが国の東方の急所を守る要地、北方の要所の大切な港としては厚岸が第一の重要な港である」と記されています。

創立から84年後の1875年(明治8)に、厚岸の総鎮守として「厚岸神社」と称されるようになりました。



厚岸神社 厚岸町湾月1丁目 TEL:0153(52)2244 例祭日 7月15日前の土・日・月



見逃さないで赤い社

厚岸駅方面から厚岸大橋を渡ってまっすぐ、大地みらい信用金庫松葉町支店を右に入ると正面にある赤い建物。高さ1m36cm、幅96cm、奥行き67cmの御堂を納める鹿島稲荷神社です。前身は300年以上前に建てられた小さな祠(ほこら)だといわれ、「鹿島」の名は明治30年ころニシン漁を営むために南部(盛岡地方)から

渡ってきた鹿島万兵衛が京都伏見稲荷神社からご神体の分霊を受けて祀ったからと伝えられます。

木造流造の御堂の床裏には「文化二年(1805)、江戸神田紺屋町式丁目 宮大工七右衛門」の墨書きがあり、これが記録に残る国泰寺を建てた宮大工の一人と同一人物である可能性が高いと考えられています。

現在は町と若竹町稲荷神社氏子総代会の手で守られ、毎年10月の例大祭には油揚げやてんぷら、お神酒や魚などが供えられます。

内部には、浜に流れ着いたという「辨才天」の額も掲げられています。

map.A - ⑥

鹿島稲荷神社祭神御堂(厚岸町指定有形文化財)
厚岸町若竹3丁目 例祭日 10月2日、3日
※内部は一般公開されていません。



厚岸大橋との調和が見事

連続する鳥居のような厚岸大橋から東を見ると、海の上、小さな牡蠣島に立つ社が見えます。創建は定かではありませんが、1791年(寛政3)の記録に残されている牡蠣島弁財天です。以前この島は保養館や料亭が立つ

ほどの広さがあり、にぎやかに祭典も行われていましたが、地盤沈下により現在の姿になりました。祀られているのは1852年(嘉永5)に奉納されたといわれる木彫りに極彩色を施した高さ24cmほどの弁財天座像、海の幸と漁の安全を守る神様です。

牡蠣島への公共交通機関はなく、一般公開もされていないことでいっそう興味をそそる神社は、近年パワースポットとしてもひそかな人気だそう。牡蠣まつり期間中はライトアップされます。

※郷土館で牡蠣島が広がったところの写真が見られます。

厚岸牡蠣島弁天神社 map.A - ⑦

厚岸湖牡蠣島16号島 ※公的な交通手段はありません。

サムライの開いた土地

国道44号線を離れ、道道14号線を標茶町へ向かうと、根釧台地の代表的な表情、大型酪農郷が広がります。1890年(明治23)に440戸が入植した太田地区です。ハンノキ、ナラの大木が密生する未開の



太田屯田兵事業所跡地

地の開墾にあたったのは、厚岸近海の警備を固めることを主目的に募集された東北、北陸、西日本の士族、ここは最後の士族屯田兵村でした。野外作業に不慣れな士族、畑作に適さない土地、開墾は困難を極めました。多くの挑戦が繰り返されました。太田5の通りに残る桑並木もその一つ、養蚕にかけた夢の跡です。

「兵」ですから戦時となれば召集がかかります。日露戦争(1904~1905年)では人口1145名の太田村から184名が出征、37名の戦没者と20名の負傷者を出しています。

鉄路がまちを変えた

海とともに歴史を刻んできた厚岸のまちの姿を大きく変えたのは1917年(大正6)の釧路~厚岸間の鉄道開通です。物流や人の流れを大きく変え、湖北地区の発展を促しました。沿線の上尾幌地区には石炭産出という新しい産業を生み出しました。鉄道開通の年に開かれた炭坑は戦時中に最盛期を迎え、1965年(昭和40)には全山閉山となりましたが、暁善寺に残る門徒さんによ

る手描きの地図に往時の賑わいが留められています。



夕日に輝く花咲線・厚岸駅付近

馬産、そして酪農へ

大正に入ると太田村に種付所が設置され、馬産が産業としての地位を確立していきました。入植以来挫折を繰り返していた畑作から馬産への転換は尾幌地区にも波及し、日本軍の大陸進出で高まる軍馬の需要に応えました。馬産を経て、太平洋戦争終結後は酪農へ。町を挙げて取り組んだ酪農の規模拡大と

経営近代化で厚岸の営農の中心は酪農へと完全に転換され、現在の高品質を誇る生乳生産体制、環境に配慮した持続可能な酪農業の姿ができてきました。



町営牧場

森づくり、海を育てる

ラムサール条約登録湿地・別寒辺牛湿原を流れる別寒辺牛川上流部のカラマツ林は、約1万ヘクタールに及び国内最大のパイロットフォレストです。1957年(昭和32)に始まり、明治期の大規模伐採と頻発した山火事で失われた森林を見事に蘇らせた大プロジェクト。森林の復活は厚岸湖の水質を改善、一時期は不可能となったカキの自然繁殖が再び見られるよう



別寒辺牛湿原

になったといえます。漁業者グループによる植林活動も盛んです。牧場と海をつなぐ植林は、国内外から注目されています。

教雲寺・法華寺・大厚寺



map.A - ⑧

浄土真宗本願寺派 甘露山 教雲寺

1893年(明治26)、借家に本願寺派仮教務所の札を掲げたのが始まり。明治27年に作られた賽銭函が現存します。本堂建築は1909年(明治42)。改築・改修をしていますが、柱や梁などは建築当時のまま使われています。内陣には聖徳太子像も祀られています。

厚岸町梅香1丁目 TEL:0153 (52) 2343

map.A - ⑨

日蓮宗 日朗山 法華寺

寺号公称は1902年(明治35)。前身は1893年(明治26)に開かれた説教所とされますが、布教活動開始をその10年前とする記録もあります。水源に乏しい土地でしたが土屋貫泰上人が寒中に海中沐浴し苦修練行、ついに前庭に水がわいたと伝えられます。

厚岸町梅香2丁目43 TEL:0153 (52) 2341



map.A - ⑩

浄土宗 慈照山 大厚寺

1908年(明治41)、開基・河野戒善和尚が現在地に開いた説教所がはじまりとされます。1947年(昭和22)年に寺号公称。

厚岸町梅香1丁目 TEL:0153 (52) 3383
※常駐者はいません。



金毘羅院・正應寺・床潭神社



map.A - ⑪

真言宗 象頭山 金毘羅院

1913年(大正2)四国出身の秋山宥猛上人が開いた、内陣で護摩(こま)を焚き、祈願、厄除けを行う祈禱寺。本堂内に「西国三十三所」観世音菩薩、「四国八十八カ所霊場」のご本尊(仏像)、弘法大師像が祀られています。

厚岸町床潭 TEL:0153 (52) 3445

map.A - ⑫

真宗大谷派 正應寺

1896年(明治29)、奔渡村に開かれた正行寺の付属説教場が前身で、1915年(大正4)床潭に移されたと伝えられます。1954年(昭和29)に正應寺として寺号公称、新潟出身の竹園恵了が初代住職となりました。

厚岸町床潭 TEL:0153 (52) 2498



map.A - ⑬

床潭神社

床潭エリア中心部の高台に1897年(明治30)建立。四国の琴平宮の祭神大物主神を祀ります。境内からは床潭漁港と大黒島を望み、眼下の床潭沼はヒブナ生息地として北海道の天然記念物に指定されています。

厚岸町床潭
※常駐者はいません。



厚岸真龍神社・高野寺・東岸寺



map.B - ①
厚岸真龍神社

御祭神は菅田別尊(ほんだわけのみこと)と住吉三神。文献上の創祠は1908年(明治41)ですが、1858年(安政5)松浦武四郎が祠(ほこら)を立てて八幡大神を奉安、当時八幡神社と呼ばれていたものが始まりと伝わります。

厚岸町宮園2丁目7 TEL:0153 (52) 2723

map.B - ②
真言宗 不動山 高野寺

「北海道八十八ヶ所霊場」第三十九番札所。1893年(明治26)富山からの開拓団と共にやってきた荒木寅吉が説教所を開設したのが始まりで、真言宗の北海道開拓の礎となった寺院です。1945年(昭和20)寺号公称。

厚岸町宮園2丁目6 TEL:0153 (52) 5344



map.B - ③
真宗大谷派 白道山 東岸寺

同郷の漁師に切願され、1890年(明治23)暁烏開見が能登から厚岸に入り、開いた説教所が始まりです。以来3人の能登出身僧侶が在勤し、3代目石井慶了が1937年(昭和12)に本堂を新築、寺号公称となりました。

厚岸町宮園2丁目3 TEL:0153 (52) 3279



寶龍寺・豊受神社・報国寺



map.B - ④
曹洞宗 瑞雲山 寶龍寺

1901年(明治34)に開かれた説教所が前身です。1924年(大正13)現在地に本堂を建立し、寺号公称。境内から海を見守る高さ10m超の観音像、広間の幅約5mの龍の墨画など見どころも多くあります。

厚岸町宮園2丁目373 TEL:0153 (52) 2456

map.B - ⑤
豊受神社

1890年(明治23)に太田地区に入植した屯田兵440戸のうち中隊長はじめ有志が発起者となって翌年遥拝所を建て豊受大神を勧請したのが始まりです。当時から変わらず太田地区の氏神として信仰を集めています。

厚岸町太田村1番地甲43号
TEL: 厚岸真龍神社0153 (52) 2723
※「厚岸真龍神社」宮司が兼務。



map.B - ⑥
臨済宗南禅寺派 北溟山 報国寺

屯田兵440戸が太田地区に入植した翌年の1891年(明治24)に設置された国泰寺説教所が前身です。6年後に寺号公称。境内入口には町指定天然記念物・太田屯田兵の赤松、しあわせ地蔵があります。

厚岸町太田東17
※常駐者はいません。



正念寺・暁善寺・光暁寺



map.B - ⑦
真宗大谷派 正念寺

1894年(明治27)、現在地の南、漁場である苫多村で、聞法の方が欲しいという村民の声に応じて開かれた説教場が前身。最初の在勤は正行寺の役僧・畔柳得明が務めました。1950年(昭和25)寺号公称。

厚岸町門静4丁目27 TEL:0153 (52) 3443

map.B - ⑧
浄土真宗本願寺派 慈光山 暁善寺

富山から鶴川に入ったものの水害に遭い尾幌に移った入植者のために、新潟から佐藤暁善が入地、1899年(明治32)造材事務所を借りて説教所の看板を掲げたのが始まり。明治33年に開いた寺子屋は尾幌小学校の前身です。



厚岸町尾幌455 TEL:0153 (56) 2005

map.B - ⑨
浄土真宗本願寺派 頭真山 光暁寺

釧路～厚岸間の鉄道開通を機に採炭地として発展が始まった上尾幌に暁善寺開基住職が1920年(大正9)開設した説教所が前身です。1979年(昭和54)に寺号公称。暁善寺住職が代々住職を代務しています。

厚岸町上尾幌123 TEL:0153 (57) 2038、
または暁善寺0153 (56) 2005



map.B - ⑩

堅展実業株式会社厚岸蒸溜所

湿原があり海霧に包まれる「スコッチウイスキーの聖地」英国スコットランド・アイラ島によく似た気候風土を生かし、2016年ウイスキー製造が始まりました。蒸溜所の外観はスコットランド風、蒸溜器もスコットランド製。めざすはカキと相性抜群のオール厚岸の材料でつくるウイスキーです。

DATA

[住所]厚岸町宮園4丁目109



注目の
ニュー
フェイス

map.A - ⑭

海事記念館

厚岸町役場に隣接。天然の良港を擁し、歴史はいつも海からやって来た厚岸らしく海がテーマです。1850年(嘉永3)、厚岸沖で座礁したオーストラリアのイーモント号の一部も展示されています(このときの乗組員は厚岸の住民が救助)。プラネタリウムも併設。



じっくり見ると、
意外と
ハマります

DATA

[住所]厚岸町真栄3丁目4番地
[TEL]0153(52)4040

[開館時間]9:00～17:00

[休館日]月曜、祝祭日の翌日、年末年始

map.B - ⑪

太田屯田開拓記念館

屯田兵制度を知る第1級の資料を展示しています。1890年(明治23)に設置され厚岸の酪農の礎となった太田村は、各地の大名を支えた名家が入植した最後の土族屯田村。2kmほど南にある太田屯田兵屋(北海道指定有形文化財)は当時の場所にそのまま立つ、数少ない遺構です。

DATA

[住所]厚岸町太田5の通り23番地1
[TEL]0153(52)3599



じっくり見ると、
意外と
ハマります

[開館時間]9:00～16:00

[休館日]月曜、祝祭日の翌日、年末年始、
冬期(11月16日～4月15日)



正伝寺
 1920年(大正9)より61年続いた曹洞宗の寺院。1981年(昭和56)焼却供養され歴史の幕を閉じたが、2003年(平成15)現在の小さなお堂が建立された。お堂に並んで「馬頭観世音碑」がある。



武佐簡易郵便局
 レンガづくりが目を引く郵便局。かつて栄えた中央武佐の中心部はこの交差点あたり。



武佐神社
 1916年(大正5)建立。



開陽台



ミルクロード



上武佐ハリストス正教会



中標津町郷土館〈緑ヶ丘分館〉



上武佐神社



転車台

武佐神社境内にある「転車台」は殖民軌道の名残。ガソリンカーを方向転換させる土台で、1929~1937年(昭和4~12)の間使用された。



旧土田旅館

1927年(昭和2)築。国の登録有形文化財。

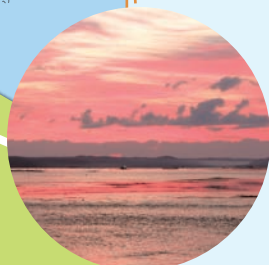


映画ロケ地看板

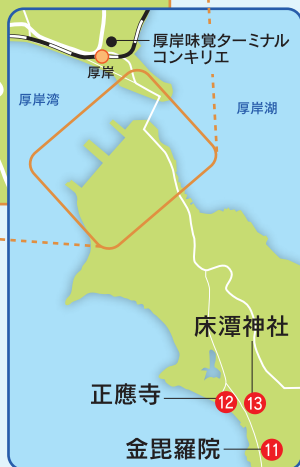
1928年(昭和3)建設。2009年(平成21)に国の登録有形文化財に登録。

建立は1922年(大正11)頃といわれている。社殿に向かい右に「牛頭天王馬頭観世音碑」が立つ。

厚岸湖南地区マップ A



▲厚岸湾の夜明け



▲厚岸湾を疾走する漁船



原生花園あやめヶ原

2016年10月発行

 **大地みらい 信用金庫**

〒087-8650 北海道根室市梅ヶ枝町3丁目15番地
TEL (0153) 24-4101

一般財団法人

**大地みらい
基金**

TEL (0153) 24-4104